



『午後の泳行』 イラスト：横浜市立大学 国際総合科学部 4年 美術部所属 安達 大介

会長挨拶

横浜市立大学後援会 会長 矢部 丈太郎

会員の皆様には、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。後援会では、学生の皆さんがより充実した大学生活を送れるよう、就職活動への支援、クラブ・サークル活動、学園祭への支援などを積極的に推進しております。また、グローバルに活躍できる人材の育成は本学における教育目標の要であり、海外留学や海外インターンシップ派遣には大学と共同して特に力を入れています。

最近の大学生は3年生になると直ぐに就活が始まり、会社訪問、企業説明会への出席などに追われる毎日となります。苦勞が実り内定をもらった会社に就職しても、3割の人が3年以内に転職すると言われます。授業や部活を犠牲にして多くの時間と労力を費やしながら、せっかく選んだ会社を辞めてしまうのはもったいないことです。人によって様々な事情があると思いますが、いくつかの理由が考えられます。大企業の多くはホールディング制をとり、子会社で事業を多角化していますので、採用されてどの子会社に配属されるか分からないことです。自分が希望していた職種と違う、社風が合わないなどと判断して気軽に退社する風潮が見られます。会社を消費者感覚で選ぶ学生が多いとも言われます。商品やサービスの誇大広告は規制されますが、リクルートにおける会社の誇大広告・宣伝を規制する法律はありません。残業がなく働きやすいなどプレゼンの巧言を信じて選んだが、実際とは違っていたというケースも少なくないようです。ネット情報だけに頼るのではなく、自ら取材して十分な情報に基づいて悔いのない選択をすることが大切だと思います。お子様が本学で学ぶことの喜びと誇りをもって、有意義な学生生活を過ごせるよう、引き続き後援会活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



学長挨拶

横浜市立大学 学長 窪田 吉信

横浜市立大学後援会の皆様方には、平素より本学へのご支援をいただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、私たちの横浜市立大学は、社会の急速な変化、特に、グローバル化と多様化が進む中、課題解決力と英語による発信力に加え、豊かな教養と専門性を備えた、国際的に通用する人材を育成しています。また、先進的な研究と高度な診療を行い、その成果を社会に還元するとともに「世界」に発信しております。



本年4月に国際総合科学部を再編し、国際教養学部、国際商学部、理学部の3学部としました。医学部（医学科・看護学科）と、昨年新設したデータサイエンス学部を加え、5学部体制となり、名実ともに「横浜と共に歩む」総合大学になりました。

「ヨコハマから世界へ」のもと、より一層の国際化の推進と大学の特徴を意識した教育、研究、医療の質の向上を進め、更なる成長と発展を目指しております。

また、在学生がより積極的に海外留学や研修ができるように支援体制の強化や海外からの留学生を受け入れる環境整備も、重点的に進めております。

保護者の皆様方と卒業生をはじめとする後援会の皆様方には、これまでも、学修活動やクラブ活動への支援、留学や就職関係事業への支援など、幅広いご助力を賜ってまいりました。引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

学部長挨拶

国際商学部長（後援会副会長） 大澤 正俊

横浜市立大学後援会の皆様におかれましては、本学の教育・研究にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。本年度は、医学部医学科90名（内、女子33名）、医学部看護学科104名（同101名）、データサイエンス学部64名（同24名）そして国際総合科学部の再編に伴い誕生した3学部、国際教養学部308名（同226名）、国際商学部281名（同132名）、理学部143名（同79名）の新入生を迎えました。新たに後援会の会員となられました新入生の保護者の皆様には、本会の趣旨をご理解いただき、ご支援の程、よろしくお願いいたします。



また、国際総合科学部につきましては、在校生全員が卒業するまで教育体制を維持して参ります。したがって、本年度から6学部となりましたが、これまでと変わらず、主体的に課題を発見し、その課題を解決する力を育てる「教養教育」と、世界中の人々とのコミュニケーションを可能にする英語力を身につけ、国際的視野を涵養する「グローバル教育」を継続して参ります。そして本年度、国際教養学部、国際商学部、理学部を開設するにあたり、在学中に多くの学生が海外留学や海外でのフィールドワークなどに参加することを教育の特徴の一つに据えました。特に新3学部では、2年生の前期後半（第2クォーター：6月初旬～前期終了まで）と夏休みを海外派遣推奨期間とし、海外サマープログラムや海外インターンシップに派遣する新たなプログラム（2Qプログラム）をスタートします。この2Qプログラムによって、これまで以上に多くの学生が海外で様々な体験をし、大いに刺激を受け、帰国後の勉学や研究に活かし、将来はグローバル人材として世界で活躍してくれると確信しているところです。

本学は昨年、横浜市立横浜商業専門学校（Y専）の開校から90年を迎え、創立100周年に向けカウントダウンが始まりました。急変する世界情勢のもと、横浜市立大学は既成概念にとらわれることなく、新しい教育・研究の手法を取り入れ、発展を続けて参ります。これからも、横浜市立大学に対するご支援をよろしくお願い申し上げます。

「未来はデータで見えてくる」 2020 年 4 月、データサイエンス研究科開設予定

2018年4月に首都圏で初となるデータサイエンス学部を開設した横浜市立大学。2020年4月には、データサイエンス専攻（博士前期課程、博士後期課程）とヘルスデータサイエンス専攻（博士前期課程）の2専攻からなる研究科を新設し、さらに高度なデータサイエンティストの育成を開始します。



データサイエンス研究科は、Society5.0 に向けて IoT や AI などの先端技術を用いてデータを解析・活用し、社会にイノベーションをもたらすことのできる高度なスキルと実践力を持つデータサイエンティストの育成・輩出を目指します。

データサイエンス専攻は博士前期課程と博士後期課程を擁し、データ駆動型社会における社会課題の解決に貢献できる高度なデータサイエンティスト育成のための教育課程を展開します。データアナリティクス力、データエンジニアリング力、社会展開力の3つの力の涵養につながる研究を推進するとともに、PBL (Project Based Learning) による学びを特徴としています。専門領域ごとの手厚い指導体制のもと、全員参加型の実践的演習とユニークなカリキュラムにより、理論だけではなく、実社会に貢献できる力を身に付けます。

ヘルスデータサイエンス専攻は、国内で唯一、医学部とデータサイエンス学部を併せ持つ大学の強みを生かし、日本で初めてのヘルス領域に特化した大学院として特徴的な教育・研究を展開します。データサイエンスの手法と医療の専門性を融合させることにより、ヘルス分野（医療・予防・介護）における学術的意義が高く、かつ具体的な問題（リサーチクエスト）の解決を提案し、提供される医療の質の向上や、予防・介護の質の向上に寄与する人材の育成を目指します。

データサイエンス研究科は、社会人でも学びやすい横浜みなとみらいエリアに設置予定のサテライトキャンパスと金沢八景キャンパスで講義が行われます。

<データサイエンス研究科概要>

研究科名称	データサイエンス研究科 Graduate School of Data Science		
専攻名称	データサイエンス専攻		ヘルスデータサイエンス専攻
	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程
学 位	修士 (データサイエンス) 学位の分野：理学	博士 (データサイエンス) 学位の分野：理学	修士 (ヘルスデータサイエンス) 学位の分野：理学
入学定員	20 名	3 名	12 名

WiDS TOKYO @ Yokohama City University プロジェクト

データサイエンス人材の育成を目指し、
世界的な活動 WiDS を推進！



2019年3月、第1回目のシンポジウムWiDS TOKYO @ Yokohama City UniversityがJR新宿ミライナタワーにて開かれました。これは、YCUデータサイエンス推進センターが産官学の幅広い協力を得て実施したもので、データサイエンス分野で活躍している女性データサイエンティストによる講演や、参加型のコンテスト「アイデア・チャレンジ」の最終審査・表彰を行い、データサイエンス分野の次世代を担う人材の育成促進を目指した活動です。



WiDSとは、Women in Data Scienceの略で、米国スタンフォード大学が中心となって進めている取組で、超スマート社会を牽引するデータサイエンス分野に男女の別なく多くの人材をいざない、教育し、支援する、世界的な活動です。

日本では、昨年度、YCUデータサイエンス推進センターの小野陽子准教授が、スタンフォード大学より初めてWiDSのアンバサダーとして認定されました。データサイエンス分野のいわば国内エヴァンジェリスト（伝道者）として、本年度も引き続きスタンフォード大学との連携のもと、“WiDS Tokyo @ Yokohama City University” プロジェクトを進めています。



このプロジェクトでは、本年度すでに4回のワークショップを開催しており、9月には、米国スタンフォード大学よりJudy Logan氏を迎え、2度のワークショップを実施しました。さらに2020年3月には第2回目のシンポジウム開催を予定しています。また、第2回「アイデア・チャレンジ」も実施します。



YCUデータサイエンス推進センターでは、今後も産官の幅広い協力を得て、データサイエンス分野で活躍する人材を育成すべく、データサイエンスの意義、面白さを広く伝えていくために本プロジェクトを進めていきます。詳細は、Webサイト（URL： <https://wids-ycu.jp>）にて随時公開していますので、是非ご覧ください。後援会の皆様には、ご支援をよろしくお願いいたします。

学術情報センター

金沢八景キャンパス学術情報センターでは、学生の学修・研究にかかわる様々な情報やサービスを提供しています。約68万冊の図書、約1万4千タイトルの雑誌、約2万1千タイトルの電子ジャーナルが利用できます。

授業期間中の平日は21時まで、土曜日も17時まで開館しており、多くの学生が学修・研究に取り組んでいます。センター内には400席を超える閲覧席のほか、情報探索やレポート作成に利用できるパソコンやグループ学修に活用できるスペースを備え、学生の様々な学修スタイルをサポートしています。2018年3月にアクティブラーニングを実践するスペースとして開設したLibrary Students Plazaが非常に好評だったため、今年の9月に座席数を大幅に追加する改修を実施しました。

学修サポートの一環として、学術情報センター職員による学修・研究のアドバイス（レファレンスサービス）のほか、学術情報センターの活用法を身に付けた学生ライブラリストップによる相談も受け付けています。学生ライブラリストップは、新入生向けの図書館案内や、図書館の広報誌・利用案内の作成、企画展示等にも取り組んでおり、学生の視点を取り入れ、学術情報センターをより学生にとって過ごしやすい空間とするための活動を行っています。

また、卒業生利用制度を設けており、卒業後も図書館を利用することができます。

◇後援会からの図書寄贈

後援会から毎年多くのご支援をいただき、学修・研究環境が一層、充実しています。

昨年度に引き続き有志の学生による「学生選書」を行い、学生の希望をより反映させた図書をご寄贈いただいています。「学生選書」による寄贈図書は9月から企画展示を行っており、学生から好評を得ています。

寄贈図書の中でも学生の日常生活に役立つ、学修方法、留学、就職活動に関する図書は、学生が多く利用するスペースに並べています。『一生使える見やすい資料のデザイン入門』や『マンガでわかる統計学』など、多くの資料が頻繁に利用されており、学生の学修・研究に大いに役立っています。



Library Students Plaza

ゼミ活動

国際都市学系 まちづくりコース 4年 武子 雛代



改修した空き家を地域拠点として運営

私が所属する不動産マネジメントゼミでは、少子高齢化や地方創生などの社会問題を住まいの面から考える実践研究をしています。その中でも私は深刻化する空き家問題に関心があり、この問題について真の知見を得るには実践が必要だと考えていました。そこに、大学近くの空き家所有者から「空き家を使ってみたいか」というご提案をいただきました。ゼミのみんなで相談し、自分たちの手で改修し、地域の拠点として運営していきたいと考えました。空き家の改修のプラン案、事業計画、役所への問い合わせ、所有者との打ち合わせなどをしながら事業を企画、運営しました。こうした事業を「考える」ことはまちづくり実習で経験してきましたが、それを「実践する」のは初めての経験でした。建築知識も特になく中で

のDIYによる改修、事業のコスト管理、地域に向けた資料作成、大家さんや地域とのコミュニケーションなど、多くの方々のご指導・ご協力を得て実現できました。改修期間は2018年12月～2019年1月、地域拠点運営は2～7月でした。こうした経験を通して、実際の空き家所有者の苦労や地域の方々「何を考え、何を求めているのか」を直に感じ、より地域や空き家問題に対する理解を深めることができました。地域拠点はふらっと地域の人に寄っていただきたく、「ふらっと」と名づけ、空き家相談会、マルシェ、DIY教室、音楽を聴く会、子育てママの交流会などに使っていただき、とても喜んでいただきました。改めてこのような実践ができたことを後援会の方々含め、関係者の皆様に感謝申し上げます。この貴重な学びを将来、地域に必ず還元したいと考えています。

国内学会発表

生命ナノシステム科学研究科 生命環境システム科学専攻 博士後期課程 3年 佐用 かなえ

2018年7月7、8日に佐賀県で開催された第37回分子病理学研究会 はがくれシンポジウムに参加し「三次元骨髄様組織内における血球細胞組成の解析」というタイトルでポスター発表を行い、優秀演題賞を受賞いたしました。

本研究会は病理学を共通テーマとして農・理・工・薬学等の幅広い自然科学分野で活躍する研究者が一堂に会し、研究分野を超えた研究者間の交流をコンセプトに開催されている伝統ある研究会です。

病理学の分野では、疾患の理解を深めるために試験管内で組織モデルの再現も試みられています。私は、構成細胞の9割以上が非接着性の血球であり組織化が大変困難な骨髄組織を対象とし、高粘性の特殊な培養液を用いて分散状態の骨髄細胞から骨髄様組織（ミニチュア骨髄）の再構築に取り組んでいます。今回の発表では、平面培養した骨髄細胞と比較してミニチュア骨髄内の血球割合が生体内骨髄組織と同等であることを報告しました。ミニチュア骨髄内で、より生体内に近い骨髄環境の再現が可能となれば、造血や骨髄疾患発症のメカニズム解明のみならず創薬分野への応用が期待されます。

研究成果を発表するだけでなく、多くの先生方から研究に関する助言をいただき大変有意義な議論ができました。学会参加を通じて得た新しい知見や幅広い分野の研究者との交流は研究生活における財産になる反面、遠方で開催される学会への参加は学生にとって大きな経済負担となります。後援会の方々には多大なるご支援をいただきましたこと、学生を代表して心より感謝申し上げます。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

グローバルな視野を持ち、世界で活躍する人材を育てるため、本学では海外での様々な学びや実践の場を提供しています。後援会の支援を受け、海外で様々な体験を重ね、多くのことを学んだ学生たちからの体験談をお届けします。

令和元年度も学生からの様々なニーズに応えるべく、モントリオール大学（カナダ）、リッチモンド大学ロンドン（イギリス）等の大学と交換留学を中心に新たにプログラムを増やしました。また一部の大学と半期の交換留学プログラムを開始しました。

海外留学・研修プログラム

	参加学生数 (予定)	プログラム名
語学研修 (英語)	7	サイモンフレイザー大学夏季語学研修 (カナダ)
	7	ダブリン・シティユニバーシティ夏季語学研修 (アイルランド)
語学研修 (フランス語)	3	トゥーレーヌ語学学院 (フランス)
語学研修 (スペイン語)	0	ナバラ大学夏季語学研修 (スペイン)
夏季講座	1	UCLA夏季講座 (アメリカ)
交換留学	2	上海師範大学 (中国)
	3	ウィーン大学 (オーストリア)
	1	仁川大学校 (韓国)
	0	タマサート大学 (タイ)
	1	ベネチア大学 (イタリア)
	3	リヨン第3大学 (フランス)
	1	マレーシア科学大学 (マレーシア)
	1	ゲーテ大学 (経営、経済学部) (ドイツ)
	0	東海大学 (台湾)
	0	高麗大学 (世宗キャンパス) (韓国)
	0	ナバラ大学 (スペイン)
	0	サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学 (スペイン)
	0	アメリカス・プエブラ大学 (メキシコ)
	2	オウル大学 (フィンランド)
	0	チェンマイ大学 (タイ)
令和元 年募 集	(2)	リッチモンド大学ロンドン (イギリス)
	(2)	ゲーテ大学 (社会科学部) (ドイツ)
	(2)	オレブロ大学 (スウェーデン)
	(1)	ハルムスタード大学 (スウェーデン)
	(2)	ウィーバー州立大学 (アメリカ)
	(2)	モントリオール大学 (カナダ)
	(2)	淑明女子大学校 (韓国)
	(2)	国立政治大学 (台湾)
長期派遣	6	ブリッジプログラム
	3	セメスター留学
	(9)	ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム

海外フィールドワーク支援プログラム

所属	参加学生数 (予定)	主な渡航先
共通教養	(15)	シンガポール(ジュロン)
国際教養学部	(13)	台湾(台北)
	26	韓国(ソウル)
	(18)	デンマーク(コペンハーゲン)、スウェーデン(マルメ、ルンド)、リトアニア(ピリニウス、カウナス)
	13	中国(重慶、麗江、上海)
	(15)	オーストリア(ウィーン)
	(10)	インド(ムンバイ、コルカタ)
	16	スウェーデン(オレブロ、ストックホルム)
国際商学部	10	中国(上海)
	7	タイ(プーケット)
看護学科	21	フィリピン(イロイロ、マニラ)
物質システム 科学専攻	21	台湾(台北)
生命環境シ ステム科学専攻	15	台湾(台北)
生命医科学専攻	8	中国(上海)

海外インターンシップ

○春季 (H31.2 ~ 3月)

国・都市名	参加学生数	派遣先企業
アメリカ・ロサンゼルス	1	JVTA, INC.
オーストラリア・ブリスベン	1	Dogstar
インド・プネ	2	Sustainability Initiatives
インド・プネ	1	Adiwasi Vikas Prabodhini/ Door Step School
インド・プネ	1	The Western Routes
中国・上海	1	上海良図商務諮詢有限公司

○夏季 (R1.8 ~ 9月)

国・都市名	参加学生数	派遣先企業
アメリカ・サンディエゴ	1	Media Arts Center, San Diego
アメリカ・ロサンゼルス	1	Japan America Society of Southern California
アメリカ・ニューヨーク	1	National Alliance NewYork
オーストラリア・シドニー	1	コニカミノルタ・オーストラリア
インド・プネ	1	Door Step School/ Adiwasi Vikas Prabodhini
フィリピン・イロイロ	5	Ayala Business Club
フィリピン・セブ	1	株式会社グリーン
ベトナム・ハノイ	1	愛トラベル・ベトナム有限会社
ベトナム・ハノイ	1	SGS Vietnam
ベトナム・ハノイ	1	MINA Center (日本語教育センター)
ベトナム・ホーチミン	1	スマイル幼稚園
シンガポール	1	コニカミノルタ・シンガポール
中国・上海	2	横浜市 (IDEC) 上海事務所
中国・上海	2	上海良図商務諮詢有限公司
韓国・ソウル	1	ベストフレンド韓国語学校

国際ボランティア

長期休業期間に、世界約35か国、約800にわたるプロジェクトから自分の希望するプロジェクトを選び、参加するボランティアです。世界各国からの参加メンバーと協力して活動することができ、様々な考え方や価値観を共有することができます。このプログラムは、TOEFLの日本事務局でもある国際教育交換協議会（CIEE）が提供しています。

R1 (夏) 派遣国実績

ドイツ、アイスランド、スペイン、メキシコ、オーストラリア、ニュージーランド、ベトナム、ネパール、台湾

アカデミックコンソーシアム参加支援プログラム

所属	参加 学生数	主な渡航先
アカデミックコンソーシアム (まちづくりユニット)	14	マカッサル (インドネシア)
アカデミックコンソーシアム (持続可能な都市づくり共通教育 プログラム(SUDP))	6	マカッサル (インドネシア)

海外留学・研修プログラム

ゲーテ大学交換留学プログラム

経営科学系 経済学コース 4年 鈴木 政樹

労働環境にまつわる問題に興味を持っており、また、留学経験を通じて自分の見識を広げたいと思ったため、このプログラムに参加しました。ゲーテ大学では労働経済学の授業を集中的に履修し、加えて、春休みに法律事務所でのインターンシップに参加しました。授業でもインターンシップでも、学んだことを積極的に活かす経験ができたのは自分の専門性を高めるのに役立ったと思います。留学生活で最も印象的だったのは日本の文化を目にする機会が多かったことです。大学図書館では日本語の本が置かれているコーナーがあったり、街の本屋にMangaというコーナーが設けられており、翻訳された日本の漫画が立ち並んでいたのは驚きでした。実際に海外で1年間過ごしてみて、こういった体験は今後の人生に大きく役立つと実感しました。後援会の支援無くしてこの体験は得られなかったもので、心より感謝しております。



マレーシア科学大学交換留学プログラム

国際都市学系 グローバル協力コース 3年 高橋 こころ



「多文化社会で暮らすとは、どういうことだろう。」そんな疑問を抱いて、人種や宗教が混在したマレーシアに留学することに決めました。留学してすぐの頃は授業のグループディスカッションでクラスメイトが1時間遅刻して来たり、住んでいた寮が断水したりとトラブルの連続で、正直この国で1年間やっていけるのかと不安に思っていました。ですが、多文化社会に生きるということとは、様々な文化、価値観、ライフスタイルを一旦受け入れてどうしたらともに暮らせるのか考えてみました。日本にいてはできない貴重な体験をたくさんすることができました。後援会の皆様には、このような素晴らしい機会を与えてくださり、とても感謝しています。この体験を今後の日本社会へ少しでも還元できたいいなと思っています。本当にありがとうございました！

ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム

国際教養学系 国際文化コース 3年 広川 つかさ

大学入学時から本プログラムに参加したいという強い思いの末に得た非常に貴重な機会であると同時に、5ヶ月間アメリカで働くことに対する不安も多くありました。現地で過ごしているうちに最初は大変だった仕事も時間と共に不思議と楽しくなりました。様々な国から訪れるゲストや仕事仲間との出会いは日を重ねるごとに増え、とても濃い時間を過ごすことができました。もちろん楽しいことばかりではなく、思うように接客が出来なかったり、自分の力不足でゲストに満足してもらえないこともあり、何度も今ここで諦めて逃げ出したいという気持ちになってしまったこともありました。しかしこのプログラムを最後まで諦めず終えることができたのは、周りにいた多くの友人や仕事仲間のサポートと一番はゲストからの励ましの言葉です。

現在、国際文化コースで様々な国の文化や言語について学んでいます。このプログラムを通して世界共通語とも言われている英語を話せない人々とコミュニケーションを取ったり、アメリカにいながらも様々な文化に触れる機会を多く得ることができました。この経験を積極的に授業や日常生活でも活かしたいと思います。本プログラム参加にあたり支援して頂いた後援会の皆様に対し厚く御礼申し上げます。



海外フィールドワーク支援プログラム

中国における「海外調査実習」

国際都市学系 グローバル協力コース 4年 服部 花生

重慶・麗江・上海と各都市を巡り、非常に内容の濃い有意義な実習でした。景観、生活スタイル、文化の違いを身にしみて感じました。麗江古城においては、ナシ族の王府の石畳の貼り方など細部までこだわった建築様式を知って、自らの文化への誇りから他民族との関係性への配慮にいたるまで多様な意味が込められていることに気づかされました。また、重慶や上海は急激な発展を遂げており、それにともなって治安維持のための規制や取締が厳しくなっていることもうかがわれました。



上海師範大学における研究会の様子

高層ビルと老朽化した住宅が隣接している再開発地区を調査して、中国社会には改善する余地がまだまだあるとわかりました。上海師範大学地理学院との交流からも多くの収穫を得ました。日本とのさまざまな違いに直接触れられたことは、知識を増やすだけでなくとどまらず、さらなる勉学のモチベーション向上に繋がったと思います。後援会のご支援に対して心より御礼を申し上げます。

海外インターンシップ

実習先：横浜市 (IDEC) 上海事務所/蘇州新鋭電子工業 経営科学系 会計学コース 3年 佐野 優



私は、横浜市の企業で中国に進出している企業やこれから進出する企業を支援する「横浜市 (IDEC) 上海事務所」と本社が横浜市にあり電子機器部品、産業機器部品、部品組み立て等をしている「蘇州新鋭電子工業」に実習に行きました。

今回このインターンシップ先を選んだ理由として、1つ目はYCUが独自に提携する実習先で、参加手続き等はほぼ全て自分で行うプログラムであり、自主性や積極性を身につけることができると考えたという点、2つ目はこのインターンシップで、海外での行政的な業務と民間的な業務の両方を学ぶことができると考えたという点があります。

今回の実習で、中国や製造業の印象が実習前と後ではまるっきり変わったので、とにかく何でも自分で体験してみて、それを終わってから客観的に見て分析してその体験を自分に落とし込んで今後に活かすことが大切だということを学びました。

今後の目標は、今までとはものの見方を変えて広い視野でものを見て自分の進路を決めていくことです。後輩学生の皆さんにも、とにかく先入観を持たずに海外に出てみることをおすすめします。ぜひどんな形でもいいので海外に出てみて、日本の文化との違いに触れてみると良いと思います。

国際ボランティア

派遣国：ベトナム

経営科学系 経営学コース 3年 小泉 里沙

私は大学1年生の時、初めての海外旅行でベトナムを訪れました。しかし、ツアーを組んでいたため、有名な観光地しか見ることができませんでした。今回国際ボランティアに参加した理由は、ベトナムのよりローカルな面を知りたいと思ったからです。ボランティアは地元の孤児院での児童福祉で、主な仕事は、障害のある子ども達の遊び相手、食事補助やおむつ替えでした。障害の種類や度合いは一人一人全く異なり、それぞれにどう接してあげるべきかを考えて行動しました。ボランティア外の時間は、現地で知り合ったボランティアの学生とベトナム観光をしました。地元の人と同じように、市バスに乗って移動したり、現地の人しか知らないような路地裏のカフェに入ってみたり、旅行では出来なかった、ベトナムに密着した生活を体験することができた2週間でした。最後に、後援会の皆様、この度の素晴らしい経験をご支援くださり、誠にありがとうございました。



アカデミックコンソーシアム参加支援プログラム

2019年8月27日（火）、28日（水）にアカデミックコンソーシアム*の総会および国際シンポジウムがインドネシアのマカッサル市にあるハサヌディン大学で開催されました。「多様な都市資源を活用した強靱な都市創造」を全体のテーマとしたシンポジウムでは、本学をはじめ、コンソーシアムのメンバー大学から多くの研究者が参加し、学術における交流を深めました。同時に、学生交流を目的とした短期プログラムが2つ開催され（まちづくりユニット国際学生ワークショップ、持続可能な都市づくり共通プログラム（SUDP））、本学からも合計20名の学生がマカッサルに渡航し、インドネシアをはじめ、メンバー大学から参加した多国籍の学生たちと共に学びました。後援会のご支援のもと、毎年、多くの学生が海外で学ぶ機会を得ております。心より御礼申し上げます。



* アカデミックコンソーシアムは、横浜市立大学が事務局を務める都市の課題解決を目的とした大学間ネットワークで、マレーシア、タイ、フィリピン、ベトナム、インドネシア、韓国の大学が参加しています。

伊藤雅俊奨学生・成績優秀者特待生表彰式

本制度は学業・人物ともに優秀な学部生に対し、学業への一層の努力を奨励するとともに、本学学生の学修意欲の向上を期待して設置しています。

2019年度は10月4日（金）に金沢八景キャンパスシーガルホールにおいて、伊藤雅俊奨学生および成績優秀者特待生の表彰式を執り行いました。式典では奨学生・特待生への表彰状および目録の授与に加えて、代表学生による学修成果の発表も行われました。

また、表彰式後には、懇親会が開催され、学生、保護者、教員が親睦を深める良い機会となりました。



YCU Best Student Award・YCU Student Award

本学の名誉を高め、学内の士気高揚に貢献する成果を上げた学生及び団体に対し、「YCU Best Student Award・YCU Student Award」として表彰を行っています。課外活動をはじめとして、学術、芸術、社会貢献、スポーツ及び文化活動において優れた業績を上げた学生の功労を称えることで学生活動の活性化に貢献しています。後援会からは受賞者に副賞をお渡ししています。

2018年は米国科学誌「PNAS」や英国科学誌「Acta Materialia」に論文が掲載された生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 博士後期課程 2年（受賞当時）鈴木凌さんと、国際法模擬裁判大会JAPAN Cup 2018準優勝、国際法模擬裁判大会ASIA Cup 2018 に日本代表として出場した瀬田ゼミの皆さんがYCU Best Student Awardを受賞されました。

YCU Student Awardには個人の部として、国際英文医学誌『Pathology International』に論文が掲載された松元加奈さん（医学部）、国際誌「Nature Plants」に共同筆頭著者として論文が掲載された三上雅史さん（生命ナノシステム科学研究科）、第6回アジアオリエンタリング選手権大会に出場した古谷直央さん（国際総合科学部）の3名が受賞されました。

また、団体の部では、第15回神奈川産学チャレンジプログラム最優秀賞受賞チームおよび第15回記念特別賞を受賞した横浜市立大学柴チーム、第27回全日本学生女子ヨット選手権大会に出場した体育会ヨット部、第61回東日本医科学学生総合体育大会テニス競技において優勝し、四連覇を果たした医学部硬式庭球部 女子部の3団体が受賞されました。



保護者説明会

2019年7月6日（土）、8年目となった在学生保護者説明会を金沢八景キャンパスで今年は後援会主催の下、開催しました。

保護者説明会は、在学生の保護者の皆様に本学の教育内容や学生支援の取組等についてご理解いただくために開催しているものです。金沢八景キャンパスでは、本学の取組紹介、留学・就職ガイダンス、就職に関する特別講演などを催し多くの方に参加いただきました。特に、留学・就職ガイダンスで学生に語ってもらった体験談は好評を得ました。その他、学修、留学、就職・キャリア形成、経済支援、心身の健康相談などに関する教職員による個別相談会も実施しました。また、同日に後援会定時総会が開かれ、データサイエンス学部土屋隆裕教授による講演が行われました。

福浦キャンパスでも後援会総会とともに、保護者説明会が7月26日（金）に開催され、後援会から運営費などの助成をいただきました。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



卒業生送別祝賀会



2018年度は、国際総合科学部725名、金沢八景キャンパス大学院110名がそれぞれ卒業・修了しました。学位記授与式後の祝賀会は6つの会場に分かれ、大変賑やかに開催されました。

例年、金沢八景キャンパス体育館での卒業式典後、卒業生は、学部ではコース、大学院では専攻に分かれて学位記の授与式を行っております。後援会の助成により、学内の会場における祝賀会を実施しています。

国際総合科学部専任教員・非常勤講師懇談会

2019年度より国際総合科学部が再編されることに先立ち、2019年3月13日に「平成31年度新学部を迎えるにあたって」をテーマに、専任教員及び2019年度非常勤講師予定者を対象とした「国際総合科学部FD・SD研修会」が実施され、教職員計63名が参加しました。

研修会では佐藤共通教養長*より、1年次全員必修科目である共通教養教育について説明があり、再編後の方向性、教育目標や教養ゼミの概要、進級要件など改めて確認し、専任教員・非常勤講師の先生方で顔合わせを行うとともに、新年度に向けた共通教養教育に関する共通認識の醸成を図ることが出来ました。

その後国際教養学部長予定者*の佐藤教授、国際商学部長予定者*の大澤教授、理学部長予定者*の篠崎教授より、それぞれ新学部の理念とカリキュラムの特長について説明いただき、研修会終了後は後援会からの助成による懇談会を開催しました。

懇談会へは教職員計55名が参加し、新年度を迎えるにあたって学部教育のさらなる質向上に向け、積極的な情報共有、意見交換を行うことが出来た大変有意義な場となりました。

*2019年3月時点での肩書きです。

第 69 回浜大祭

普段より私たち浜大祭実行委員会に対する皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。後援会の皆様の多大なるご支援のお陰で、第69回浜大祭は11月3日（日）と4日（月・祝）の2日間、金沢八景キャンパスにおいて多くの方々にご来場いただき、無事に開催することができました。誠にありがとうございました。

今年の浜大祭のテーマは“爛漫”でした。浜大祭は横浜市立大学のシンボルである銀杏の木が爛漫と色づく季節に開催されます。また、浜大祭に関わる全ての人が爛漫とした笑顔になってもらえるように、という願いが込めてあります。

2日間とも雨予報の中、天候にも恵まれ、今年の目標であった『来場者数1万人』を上回る皆様にご来場いただきました。ステージ企画も無事行うことができ、多くの方々にご参加いただけました。

今年も学生や地域の方々の交流の場となりました。また、お子様のご来場も多く縁日やスタンプラリーなどの企画にご参加いただき、たくさんの笑顔があふれる学園祭となりました。

第69回浜大祭実行委員会 委員長 武内 晶



第 68 回関東甲信越大学体育大会



2019年8月19日（月）～9月1日（日）にかけて、関東甲信越地区の国公立大学13校から約3,500名が参加する総合体育大会である、「第68回関東甲信越大学体育大会」が開催されました。

今年度は茨城大学が主管校を務め、宇都宮大学、筑波大学を含めた3校が当番校となり運営を行いました。今大会では、本学から13団体183名が参加し、水泳部が女子で3位入賞、陸上部が個人戦、リレーなど8種目で入賞し、そのうち女子1500mで優勝を果たすなど、日頃の練習の成果を存分に発揮し、素晴らしい成績を収めることができました。

今回、競技会場が茨城や栃木といった遠方であったため、後援会からの補助金を選手の遠征・宿泊費等に充てさせていただきました。毎年いただいている運動部連合会に対する援助により、こうした活動を円滑に行うことができます。お力添えに心より感謝申し上げます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

運動部連合会 関東甲信越大学体育大会担当 本間 駿

クラブ活動

■応援団チアリーダー部 SEAGULLS

日頃より私達学生の活動に対し、ご理解とご支援をいただきありがとうございます。おかげさまで充実した活動を送ることができています。チアリーダー部は現在部員17名で週3日練習に励んでいます。毎年4つの大会に参加することを軸に、他にも運動部の応援や地域イベントへの参加を主な活動としています。人数も増え、また、スキルも上がり、大会では上位入賞を果たしています。部員のほとんどが大学からチアを始めたにも関わらず、コーチの指導のもと他チームに負けない技術を身につけています。練習日以外に自主的に体育館に通ってバク転等の練習をする部員もあり、チームとしても個人としてもスキルアップを目指しております。

2019年8月に出場した大会では、東京女子体育大学に次いで2位に入賞し、2020年2月に開催される世界大会へ出場することが決定しました。初の世界大会ということで部員一同気合十分です。今後も継続的に出場できるようますます精進して参りますので、今後ご支援のほどよろしくお願い致します。

応援団チアリーダー部 主将 菅野 紗也



■テコンドー部

テコンドーとは足技を主体とした華麗な格闘技です。部の活動として週2回という少ない時間ですが、1人1人が明確な目標を持つことで集中して練習に取り組むことができ、地方大会等の望ましい成果に繋がっていると感じています。また今年はありがたいことに多くの部員が入部し益々活気溢れる部活になりました。

大学生という貴重な時間を部活動に充てるという点で、楽しみながらやらないと何も残らないと感じています。一方で、私達がやっているのは格闘技であり武道ですから真剣に取り組まないと大きな怪我に繋がりが兼ねません。そういった切替を全員が意識すれば、部活に強いやりがいを持てるのではないかと考えています。

毎年11月には後楽園ホールにて全日本大会に選抜参加しています。この大会で結果を残すことが部としての1番の目標ですが、こうして毎年参加できているのは、大学をはじめ後援会のご支援の賜物です。市大を代表する部活として今後も活動していきたいと考えておりますので、変わらぬご支援のほど、宜しくお願い致します。



テコンドー部 主将 濁澤 舜

■科学倶楽部



私たち、科学倶楽部は設立から12年、理科学振興を主としたボランティア活動を通して、理科に触れる機会を与えることによって、子供の知的好奇心を呼び起こす手助けをし、理科学探究に対しての一助として貢献することをミッションに活動しております。

教員を目指す学生や、科学が好きな学生、何かアクションを起こしたい学生など、それぞれ志を持った学生が所属しています。

具体的な活動として、横浜市立大学エクステンション講座の一環で「親子実験教室」を夏休みに開催し、毎年満員となる好評をいただいております。また、地域の地区センター・小学校・YMCAなどで出張実験教室を年4回程度実施しています。



このように、子供たちに“科学”を楽しんでもらうためのイベントを多数企画運営する上で、必要となってくる機材、試薬、材料などの購入のために、後援会から頂いた補助金を使わせていただいております。おかげさまで、毎年滞りなくボランティア活動を続けることができております。本当にありがとうございます。今後ともご支援とご協力のほど、何卒よろしくお願い致します。

科学倶楽部 部長 荻原 誠二

■陶芸部

陶芸部は毎週水曜日に作陶をし、後日底削りなど窯焼きをするための微調整を各自行なっております。「横浜市立大学に窯なんてあるの?」とよく聞かれるのですが、立派な窯と電動ろくろが3台と陶芸をするにふさわしい設備が整っております。昨年は設備のメンテナンスのため後援会の補助金で電動ろくろを購入いたしました。また年に数回窯焼きを行い、浜大祭では作陶した物を「販売」しております。毎年作品を見に来てくださる地域の方々も多く、その応援がモチベーションとなって部員も熱心に作陶作りに取り組んでおります。最近では「お皿」だけでなく「箸置き」や「置き物」など




細かな作品を作る部員もいたり、陶芸の作品の幅が広がっております。部員は陶芸部の活動を通して、自身のオリジナル作品ができる喜び、そして日常生活の中で滅多に体験することができない「陶芸」の世界を横浜市立大学で体験できるというのが大変貴重な経験となっております。このように私たちが素晴らしい環境の中で作陶できるのは、後援会からの補助金をはじめ多くのご支援があつてのことで、大変感謝しております。今後ともご支援ご協力のほど宜しくお願い致します。



陶芸部 部長 福士 紗英

キャリア支援センターでは、在学生一人ひとりの夢の実現をサポートするため、様々なキャリア・就職支援を行っています。例えば、キャリア・進路に関する相談、求人情報・OBOG情報等の公開はもちろん、毎年200社以上の企業が学内に集まって説明会を実施する合同企業セミナー、卒業生との交流会の運営など、YCUならではのイベントも多く開催しています。

キャリア・就職支援の主な取り組み

キャリア・進路相談	専門のキャリア・コンサルタントを配置し、マンツーマンで相談に応じています。学部1年次より利用可能で、希望する進路や将来のキャリア像にあわせて学生の自立をサポートしていきます。また、エントリーシート添削・模擬面接など、就職活動の具体的なアドバイスも行います。	
キャリア支援イベント	1年を通して様々な就職・キャリアに関するイベントを開催しています。就活年次生向けの就職対策講座はもちろん、低学年向けの就職ガイダンスや公務員講座（有料）、理系学生向けの進路ガイダンス、留学出発前・帰国後の学生のための就職セミナーなど、学生の多様なニーズにあわせたイベントを実施しています。	
キャリア形成実習（キャリアデザイン）	主に学部の1年生を対象に、仕事や就職だけでなく、より広い視野で主体的にこれからのキャリアについて考えることを目的とした正課科目です。OBOGをゲストスピーカーとして招き、学生時代の経験が社会に出てどのように活かされているか、社会に出るとはどういうことか、といったことをお話しいただく機会も設けています。	
インターンシップ	民間企業から官公庁まで幅広い分野で、国内外問わず就業体験をする場を提供しています。海外インターンシップでは、学生の海外渡航費用の一部を後援会より助成をいただいています。 * 学部1年次後期以降対象 海外インターンシップについては、6ページ、8ページをご参照ください。	
キャリアサポーター制度	卒業生がキャリアサポーターとして在学生のキャリア・就職支援を行う制度です。現在、キャリアサポーターは3,000名以上の登録があり、在学生はキャリア支援センターでサポーター情報を検索し、直接コンタクトをとることができるほか、年に1回開催される「キャリアサポーターと学生の集い」と題した交流会を通して、仕事のやりがいや就活のアドバイスを聞くことができます。 * キャリアサポーターと学生の集いの開催費用は後援会より助成をいただいています。	
キャリアメンター制度	就職活動を終えた学部4年生／修士2年生（メンター）が自己の経験をもとに、後輩（学部3年生／修士1年生）に対して相談に応じたり、助言をしたりする制度です。学生同士の交流を目的として、年に1度開催している「内定者と就活生の集い」の開催費用を後援会より助成をいただいています。	
書籍の貸出し	業界・職種研究や筆記試験、面接対策など就職活動に役立つ書籍のほか、キャリア全般に関する書籍、ビジネス誌等を学生に貸出ししています。書籍の購入費用は一部、後援会より助成をいただいています。	
就職支援パートナーシップ制度	首都圏以外の各地方で就職を希望する学生を支援するため、Uターン・Iターン就職希望地域の協定大学（下記14大学）で求人情報閲覧や就職相談、合同企業説明会への参加等が可能となる制度です。国際教養大学、福井県立大学、信州大学、長野県立大学、首都大学東京、都留文科大学、山梨大学、山梨県立大学、静岡県立大学、名古屋市立大学、大阪市立大学、兵庫県立大学、広島市立大学、北九州市立大学	

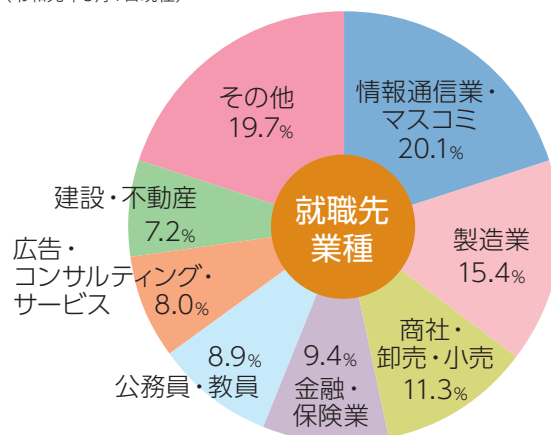
入学から卒業までの流れ

学年	1 年	2 年	3 年	4 年
支 援 内 容	新入生オリエンテーション	2 年生向けオリエンテーション	3 年生向けオリエンテーション	
	キャリア形成実習（キャリアデザイン）			
	キャリア・進路相談			
	キャリア支援イベント			
	国内・海外インターンシップ			
			公務員講座	
			就職ガイダンス・合同企業セミナー	
			キャリアメンター制度	
			キャリアサポーターとの集い	
	OB・OG 訪問（キャリアサポーター制度）			
	書籍貸出し			
	就職支援パートナーシップ制度			

卒業生進路

卒業後の進路は就職をはじめ、大学院への進学や留学、資格取得など様々です。国際教養学系、国際都市学系、経営科学系の文系の学生は90%以上が就職を希望し、理学系では約6割の学生が進学しています。直近の平成30年度国際総合科学部卒業生全体の就職率は99.3%と、全国平均を1.7ポイント上回る数値となりました。グローバルに事業展開する民間企業のほか、横浜市役所や横浜銀行など横浜市内で働くことを希望する学生も多くおり、就職後の状況は各企業から高い評価をいただいております。

■平成30年度国際総合科学部 卒業生業種別就職先
(令和元年5月1日現在)

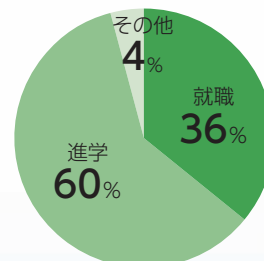
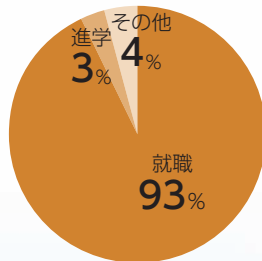
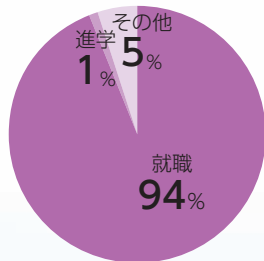
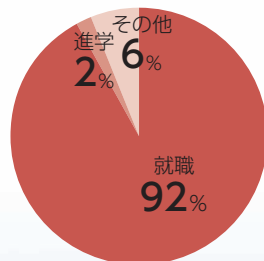


■平成30年度国際総合科学部 卒業生進路状況 (令和元年5月1日現在)

※就職率=就職者数÷就職希望者数

国際教養学系				国際都市学系				経営科学系				理学系			
就職率	98.8%			就職率	100%			就職率	99.6%			就職率	98.2%		
進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他
人数	163	4	10	人数	125	1	7	人数	241	7	12	人数	56	93	6

[進路内訳]



■平成30年度国際総合科学部 卒業生の主な就職先・進学先

国際教養学系

■製造業

カシオ計算機株式会社
ゼブラ株式会社
株式会社ニチレイフーズ
日産自動車株式会社
日本食研ホールディングス株式会社
三菱ケミカル株式会社
■金融・保険業
株式会社秋田銀行
川崎信用金庫
第一生命保険株式会社
株式会社東日本銀行
株式会社福井銀行
三井住友海上火災保険株式会社
三井生命保険株式会社

■建設・不動産

三井住友建設株式会社
株式会社横浜岡田屋
■広告・コンサルティング・専門サービス
株式会社JTBコミュニケーションデザイン
デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
■公務員・教員
神奈川県教育委員会
神奈川県警察
菊川市役所
厚生労働省神奈川労働局
国土交通省東京航空局
台東区役所
茅ヶ崎市役所
東京税関
横浜市役所

■商社・卸売・小売

コニカミノルタジャパン株式会社
株式会社トーハン
株式会社ニトリ
日本出版販売株式会社
リコージャパン株式会社
■情報通信・マスコミ
株式会社JALインフォテック
株式会社テレビ信州
東北放送株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
株式会社日本経済広告社
ハマコムエイコム株式会社
ヤフー株式会社
■その他
ウォルト・ディズニー・カンパニー

株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社サカタのタネ
スターバックスコーヒー・ジャパン株式会社
全日本空輸株式会社(ANA)
中部ガス株式会社
西日本鉄道株式会社
株式会社パナソニック
ヤマト運輸株式会社
株式会社リクルートキャリア
■主な進学先(大学院)
九州大学大学院
京都大学大学院
東京学芸大学大学院
東京女子大学大学院

国際都市学系

■製造業

株式会社IHI
京セラ株式会社
トヨタ紡織株式会社
株式会社日立ハイテクノロジーズ
富士通株式会社
株式会社メニコン
株式会社ヤクルト本社
横浜ゴム株式会社
■金融・保険業
SMBC日興証券株式会社
株式会社かんぽ生命保険
信金中央金庫
大和証券株式会社
ドイツ銀行東京支店

長野銀行

■建設・不動産
株式会社一条工務店
大和ハウス工業株式会社
東急建設株式会社
三井物産フォーサイト株式会社
三菱地所コミュニティ株式会社
横浜市住宅供給公社
■広告・コンサルティング・専門サービス
KPMGコンサルティング株式会社
■公務員・教員
青森県庁
大田区役所
川崎市役所
静岡県庁

総務省

東京都庁
広島県庁
横須賀市役所
横浜市役所
■商社・卸売・小売
コーチ・ジャパン合同会社
株式会社サンゲツ
株式会社バルコ
株式会社良品計画
■情報通信・マスコミ
富士ソフト株式会社
株式会社毎日新聞社
株式会社山梨放送

■その他

株式会社オリエンタルランド
カタール航空
神奈川中央交通株式会社
株式会社河合塾進学研究社
株式会社近鉄エクスプレス
静岡ガス株式会社
静岡鉄道株式会社
東京商工会議所
東京電力株式会社
羽田空港サービス株式会社
丸全昭和運輸株式会社
■主な進学先(大学院)
横浜市立大学大学院

経営科学系

■製造業

株式会社キーエンス
株式会社クボタ
コニカミノルタ株式会社
株式会社デンソー
日本たばこ産業株式会社
日本電気株式会社(NEC)
日本発条株式会社
富士ゼロックス株式会社
株式会社ボーラ
マルハニチロ株式会社
森永乳業株式会社
株式会社LIXIL
株式会社ロッテ
■金融・保険業
株式会社日本政策金融公庫

野村證券株式会社

株式会社みずほフィナンシャルグループ
株式会社三井住友銀行
株式会社三菱UFJ銀行
株式会社ゆうちょ銀行
株式会社横浜銀行
■建設・不動産
伊藤忠都市開発株式会社
株式会社大林組
鹿島建設株式会社
清水建設株式会社
■広告・コンサルティング・専門サービス
株式会社アサツーディ・ケイ
株式会社野村総合研究所
株式会社浜銀総合研究所
びあ株式会社

■公務員・教員

財務省関東財務局
静岡県庁
仙台市役所
東京国税局
東京都特別区
福島県庁
■商社・卸売・小売
キャンノンマーケティングジャパン株式会社
住友商事株式会社
株式会社セブン・イレブン・ジャパン
株式会社ファーストリテイリング
富士フイルムメディカル株式会社
ブラザー販売株式会社
株式会社丸井グループ

■情報通信・マスコミ

KDDI株式会社
株式会社ジュービターテレコム
株式会社スクウェア・エニックス
日本放送協会(NHK)
■その他
株式会社公文教育研究会
京浜急行電鉄株式会社
名古屋鉄道株式会社
日本航空株式会社(JAL)
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社横浜シーサイドライン
■主な進学先(大学院)
横浜市立大学大学院
一橋大学
早稲田大学

理学系

■製造業

株式会社アジバンコスメジャパン
アステラス製薬株式会社
アンファーマ株式会社
オムロン株式会社
キーサイトテクノロジー・インターナショナル合同会社
キューピー株式会社
日本光電工業株式会社
日本特殊陶業株式会社
ヒロセ電機株式会社

株式会社ミツカン

■建設・不動産
株式会社杉孝
■広告・コンサルティング・専門サービス
株式会社アイコン・ジャパン
株式会社環境デザイン設計事務所
シミック株式会社
株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社
■公務員・教員
愛知県教育委員会

神奈川県警察

鎌倉市役所
国土交通省
農林水産省
■商社・卸売・小売
豊田通商株式会社
株式会社ビーシーデポコーポレーション
■情報通信・マスコミ
京三システム株式会社
株式会社ジェイアール東日本情報システム

新日鉄住金ソリューションズ株式会社
株式会社電通国際情報サービス
東京ガスネット株式会社
みずほ情報総研株式会社
楽天株式会社
■主な進学先(大学院)
横浜市立大学大学院
筑波大学大学院
東京大学大学院
東京医科歯科大学大学院

横浜市立大学後援会会則（新）

（名称）

第1条 本会は、横浜市立大学後援会と称する。

（事務局）

第2条 本会は、事務局を横浜市立大学金沢八景キャンパス内に置く。

（目的）

第3条 本会は、横浜市立大学の教育研究事業及び学生生活の支援等を行うことを目的とする。

（事業）

第4条 本会は、前条に定める目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学生の教育研究活動への支援
- (2) 学生の学業、課外活動及び福利厚生事業に対する助成
- (3) 学生の国際交流事業に対する支援
- (4) 学生教育に関する講演会・研究会等の開催
- (5) その他目的達成に必要なと認められる事業

（会員）

第5条 本会は、次の会員をもって構成する。

- (1) 横浜市立大学に在学する学生（医学部2年次以上及び医学研究科を除く。）の保護者又は学生本人（以下「1号会員」という。）
- (2) 横浜市立大学の教職員及びその退職者で本会の事業を支援する者（以下「2号会員」という。）
- (3) その他本会の事業を賛助する者（以下「3号会員」という。）

（役員の設置）

第6条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 理事 15名以上20名以内
- (2) 監事 2名以内

2 理事のうち1名を会長、1名を副会長とする。

3 理事のうち2名を業務執行理事とする。

（役員の選出）

第7条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、業務執行理事は、理事の互選により選出する。

（役員の任期）

第8条 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、会員資格を失ったときは退任する。

（役員の任務）

第9条 役員の任務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- (3) 業務執行理事は、本会の業務を処理する。
- (4) 監事は、本会の業務及び会計を監査する。

（顧問）

第10条 本会は、横浜市立大学との連携を密にするため、顧問を若干名置くことができる。

2 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。

3 顧問は、会長の諮問に応じるとともに、会長の求めにより理事会に出席して意見を述べることができる。

（職員）

第11条 本会の事務を処理するために、事務局に職員を置く。

2 職員は、理事会の承認を得て会長が委嘱し、有給とする。

（会議等）

第12条 本会の会議は、総会及び理事会とする。

2 総会及び理事会の議長は、会長がこれにあたる。

（総会の決議事項）

第13条 総会は、年1回開催し、次の事項について決議する。

(1) 役員の選任

(2) 事業報告及び決算の承認

(3) 会則の改正

(4) その他本会の運営に関し必要と認められる事項

2 会長は、必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる。

3 総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

（理事会）

第14条 理事会は、理事全員をもって構成する。

2 監事は、理事会に出席し、意見を述べる。

（理事会の決議事項）

第15条 理事会は、事業計画、予算、決算及びその他本会の運営に必要な事項について決議する。

2 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。

ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。

3 理事会の議事は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

（会計）

第16条 本会の経費は、会費、寄附金及びその他の収入をもってこれにあてる。

（会費）

第17条 本会の1号会員は、入学時に会費を納入することとし、既納の会費は返還しない。

2 会費の額は、次のとおりとする。

(1) 学部においては学生1名につき、50,000円（ただし、医学部1年次生については15,000円）

(2) 大学院博士前期課程及び博士後期課程においては院生1名につき30,000円（ただし、博士前期課程から博士後期課程に進学した者にあつては20,000円）

3 2号会員及び3号会員については、会費の納入を要せず、随時、本会の事業を支援、賛助するための寄附に努めるものとする。

（会計年度）

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（会則の改正）

第19条 この会則の改正は、総会で行う。

2 改正を議決するには、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

附則

本会則は、平成17年4月1日から施行する。

2 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする。

附則

本会則は、平成19年6月2日から施行する。

附則

本会則は、平成22年6月26日から施行する。

附則

本会則は、平成26年7月5日から施行する。

附則

本会則は、平成29年7月1日から施行する。

附則

本会則は、令和元年7月6日から施行する。

横浜市立大学後援会事務局

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学内

TEL : 045-787-2397 e-mail : kouenkai@yokohama-cu.ac.jp

Http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/